

平成 28 年度 海洋水産資源開発事業（いか釣：日本周辺海域）の結果概要



調査船：第十八白嶺丸（183 トン）

調査期間：平成 28 年 6 月～平成 29 年 1 月

調査海域：日本周辺海域

ただし、外国 200 海里内、指定漁業の許可及び取締り等に関する省令第十七条別表第二で定められたいか釣り漁業の禁止海域を除く。

本調査の目的

いか釣り漁業では、漁灯として水銀灯の一種であるメタルハライド（以下、MH という）灯が広く利用されている。しかし、MH 灯による燃油消費量はいか釣り漁船の燃油消費量全体の約 30～40% と大きな割合を占め、これが燃油価格の変動による経営の不安定化の要因となっている。また、我が国は 2016 年にパリ協定を批准し、2030 年度までに温室効果ガス排出量を 2013 年比で 26% 削減する目標を掲げており、本漁業の燃油消費構造の転換が社会的な要請となることは想像に難くない。また、MH 灯は水銀の国際取引や水銀を使用した製品の製造・輸出入などを 2020 年以降に規制する水銀に関する水俣条約の規制対象外となっはいるが、公共施設等で広く使用されている高圧水銀ランプなどの水銀灯は LED 灯に置き換わりつつあることなどから、水銀を使用した灯具の製造は縮小傾向にあると思われる。さらに、MH 灯はさんま棒受け網漁業でも広く使用されていたが、ここでも LED 灯への移行が進んでいることなどから、今後も MH 灯が漁灯として安定的に供給されるかは不透明な状況となっている。このような状況の下、省エネルギー型漁灯を用いた効率的操法を確立することにより、いか釣り漁業の収益性改善に資することを目的とした。

本年度調査の主な成果等

平成 28 年度の調査では、LED 漁灯のみを艀装した調査船の放射照度を当業船（MH250kW）の放射照度に可能な限り近づけて（MH 換算 225kW 相当）、夜間に当業船（石川県小木、姫、青森県八戸 A、八戸 F および山形の各船団所属船）と比較操業を行った。その結果、当業船平均のおよそ 80% の漁獲成績を上げた。また、燃油消費量は LED 灯の省エネ効果により、当業船平均の 3 割削減されることが確認され、LED 漁灯のみでの操業でも採算を確保できることが示唆された。

